

令和4年度 自己評価計画書

石川県立羽松高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒一人ひとりの適性と能力に応じたきめ細かい学習を行うため、指導に関わる全教員で個々の教育的ニーズを把握したり、手立てを検討したりしながら指導の充実を図る。	① 基礎学力の定着に向け、各教科で「授業がわかりやすい」と生徒が満足できるよう、授業改善に努める。	教務課 各教科	基礎学力と学習意欲が身につけていない生徒がいるため、学び直し等の学習に多くの時間をかける必要がある。	【成果指標】 授業内容を理解し、基礎学力が向上している。	授業改善により、高校生のための学びの基礎診断の成績（文章読解・作成能力検定4級等）が向上した生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	11月の検定結果と12月の生徒アンケートにより集計
	② 授業力の改善と、教員の資質向上を図るため、発達障がい者理解のための研修を含め、校内外への各種研修に積極的に参加する。	教務課	相互授業参観や校内研修会等を行っているが、校外への研修参加が少ない。	【努力指標】 校内外の研修に積極的に参加し、授業力と資質向上に努める。	校内外の研修に、6回以上参加した教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	8月、1月の教員アンケートにより集計
	③ ICT機器（Chromebook等）を効果的に活用し、生徒が意欲的に授業に参加するよう授業改善に努める。	教務課	習熟度別指導、TT、サポート支援等を実施しており、一定の効果を上げているが、ICT機器を有効に活用するなど、なお一層の授業改善が求められる。	【努力指標】 教員がICT機器等を有効に活用し、生徒の興味・関心を高めるような授業改善に努める。	ICT機器を授業で活用することで、意欲的に授業に参加していると思う生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒授業アンケートにより集計
2 基本的な生活習慣を確立し規範意識を高めるとともに、道徳心や倫理観の向上を図る。	① いじめや非行、スマホ等を利用した不適切な行為を未然に防止するために、各種講習会・講演会を実施する。	指導課 全教職員	いじめの報告や生徒指導上の問題はないが、ネットいじめ等を含めて、情報モラルの理解とその徹底が急がれる。	【努力指標】 規範意識と道徳心・倫理観の向上を図り、いじめや非行のない学校づくりに努める。	いじめや不適切行為に関する訴え・相談件数が A 0件である。 B 1件である。 C 2件である。 D 3件以上である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒アンケート及び、9月、3月の生徒指導等調査により集計
	② 生活指導をとおして、挨拶や言葉遣いをはじめとして、適切な態度が取れるように、情操教育を充実する。	指導課	年々、規範意識の高い生徒の割合は高まっているが、全体的に挨拶に元気がなく、物事に積極的な行動が望まれる。	【努力指標】 TPOに応じた高校生らしい言動と、身だしなみに努める。	校則や社会のルール、TPOを意識して生活していると思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒アンケートにより集計
	③ 健全な生活習慣を確立し、朝食摂取の習慣を身につけるとともに、食育や栄養指導を充実する。	厚生相談課	生活習慣が改善されず、「朝食を食べて登校する」ことに対する、意識の低い生徒が見られる。	【成果指標】 健全な生活習慣を確立し、毎日朝食を摂ることができる。	朝食を毎日食べる生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒アンケート及びヘルスチェックアンケートにより集計

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 学校行事などの集団活動を通じて協調性やコミュニケーション力を高め、社会人として必要な素養を身につける。	① 生徒が主体的に活動し、自分の考えを主張できるよう、授業に協働作業やグループ活動等を積極的に取り入れる。「通級」による有効な指導法を、通常級の指導に生かす。	全教職員 教務課 厚生相談課	不登校経験者や転・編入生が在籍しており、人前で発言することや他者との意思疎通が不得意な生徒がいる。	【成果指標】 自分の考えや意見を、相手にわかりやすいように伝えることができる。	授業中に、自分の考えや意見を述べることができるとする生徒の割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒授業アンケートにより集計
	② 学校行事等において、生徒各自が責任感を持って取り組み、自己肯定感と協調性が高まるような働きかけを行う。	指導課	他者と関わることや集団活動を苦手とするため、学校行事等に積極的に参加できない生徒がいる。	【成果指標】 生徒各自が行事等に参加して、自分の役割を果たそうとしている。	校内外の各種行事に、積極的に取り組んだと思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	行事毎、及び7、12月の生徒アンケートにより集計
	③ 安全で安心な学校づくりに欠かせない避難訓練等において、生徒が的確な判断の下、身を守るために必要な行動を取れるように指導する。	総務課 指導課	避難訓練（煙退避訓練等）では、生徒は自分自身のことと捉えて行動できるようになった。今後は、日常生活の中における防災意識の向上が課題である。	【成果指標】 防災に対する意識を高め、全生徒が避難する際の行動と手順を理解している。	緊急避難時に守るべき事項と、自分が取るべき行動について、理解していると思う生徒の割合が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	C以下の場合、再検討する。	行事毎の生徒アンケートにより集計
4 外部人材を招いて「就業支援コーディネーターチーム」を組織し、卒業時の進路未決定者の減少に向けた取り組みを推進する。	① 各学年に適切なキャリア教育と進路指導を実施し、就労意識を高めるとともに、生徒が自ら進路目標を決定できるように支援を行う。	指導課	卒業後の進路を漠然と考えている生徒が多く、最終学年になっても、進路について決断できない生徒がいる。	【満足度指標】 定通企業ガイダンス、総合的な探究の時間等を通して、進路目標を定め、目標達成に向けて取り組んでいる。	具体的な進路目標を持ち、進路実現のために努力すべきだと考えている生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	行事毎、及び7月12月の生徒アンケートにより集計
	② 生徒の進路志望を実現するため、関係諸機関や地元企業との連携を深め、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。	指導課	正規就業が難しい生徒に対する指導・助言が不十分である。当該生徒の進路の決定時期が遅くならないように、関係諸機関と連携し、就業支援を充実させる必要がある。	【成果指標】 生徒の進路希望に応じた進路実現が可能となる。	卒業生の進路実現の割合が A 100%である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C以下の場合、再検討する。	就職は11月下旬、進学は12月下旬に中間集計。2月末に最終集計
5 業務の平準化を意識した教職員の働き方改革を推進し、効果的な教育活動や生徒指導の充実につなげる。	① 教職員の多忙化改善に向けて、適切な校務分担と、効率的な業務の遂行に務める。	全教職員	少人数の教員が複数の校務を担当しているため、1人あたりの仕事量が多い。また、各課の業務量に差がある。	【成果指標】 教職員一人ひとりが多忙化改善に向け、業務内容を点検し、効率的な校務遂行に取り組んでいる。	職場の多忙化改善に取り組んだ、と答えた教職員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	8月、1月の教員アンケートにより集計